



101
A4429



李仙得再答斯密書



414
A 4429

天正十一年四月
候御郵寄



千八百七十四年五月十一日
十八日ボアソニナー、デ、ホンタラビ
夜歸リ来リ候疑問書江スミスノ返答中要領ノ
箇條ヲ奉ケ廻答仕候ボアソニナードノ手ニテ以
書ハ加ヘ候注解ハ既ニ出来致シ居候得共閣下
ヨリ同氏ヘ一昨夜認メ候様御頼ニ書未ク出来
不仕今夕ハ完成ノ心組ノ由ニ候向右免取次第
右ノ書付ト共ニ差上候様可仕候也

千八百七十四年

六月廿六日

千ヤトレスウ、レセ

大隈重信公圖下

千八百七十四年

五月十九日

...

...

...

...

...

...

...

大隈重信公圖下

2

千八百七十四年五月十九日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

人詞ハ心得又ハ忠告 語ヒナシバ
告スル文意ニ此字義ヲ推 示知ル人
其報告下ハ何事ナルヤビシカシ君ノ依
句申中ニ数語ハ畧文アリトセザレバ「報告」ノ
語ヲ以テ通スル所「心得」又ハ「忠告」ノ事實ニ充
分ナラス但シ畧文ハ其意味ヲシテ未分明ニナ
ス元ハニシテ或ハ「決」ト「律」トノ下ニ「可」ラズノ
語ヲ填入スルモ可又「勿」レ「語」ヲ填入スルモ亦
可ナリ而シテ意味互ニ相異ナリトモモ可
ナ「語」ヲ填入スルモ「則」ケルニカム

心ニ在リトナシ 又「勿」レ
元トモ公則ナリ其意 命令下ニ在リ
ス入シ借テビニガム君我ニ 命令ヲ下タス
意アリシトナハ我レ其命令ニ從フマシト之ニ
告タタル時何故ニ其命令ヲ施行スルハ 置フナカハ
「シヤ」長崎在留ノ合衆國領事官ニ蒸氣船ヨウヨル
号ヲ港ニ置クベキヤ否命マラレタリ然ルニ「ア」ノ人
臺灣行ノ事ニ發行ノ命令ニ從ヒ之ヲ禁止スル旨
ヲ領事官ニ達セサルハ何故ナリトモ「道理」極
リ易キ事ナリ即チ彼ノ事即チ「シヤ」ノ号ヲ留

公使モトヨリ其權ニシテ第八号實同返答ヲ見ルヘシ
トコウヨク夕号出帆ノ止ムル公政ハヨクカキテ止ル
モ他ヨリ異論ヲナスヘカラス又長崎在勤合衆國使事ヘ公
使ヨリ下タセシ命令モ別ニ論スヘキ事ナシ第一号ノ綴込
見ルヘシ但シ公使ノ処置ヨリ起リシ極悪ノ事ト云フハ雇
ハレ方破談ノ事ニ付キ船ノ持主ト政府ノ間ニ議論ノ起リ
シ事ナリ是ハ公使ノ關係スルキ事ニアラズ蓋シ若シ船ノ持主
命令ノ出カレニ付キ苦情ヲ言フトキハ公使カク言ハントカ
曰ク予ハ全ク政府ノ主觀ニ從テテ処置ヲスルセシテナリ
存テ相手ノナクベキノ事ナリ又日本政府ヘカク

4

白ク言カカ置置、願ハサル所ニ依
領事官ニ言ハサレシヤ領事官ニモト江
後ニ港ニ船ヲ置クベキヤ、余セラレタリ是故ニ汝
願フ所ハ船ヲ留マラサシ事ナリト言言ノ命ヲ下
各船ヲシテ出帆セシヤ、表々、
遠征ニ務ムルヤ、カ人ノ事ニ至テハ事ヤ、異セシ
世トシシガムノ余輩ニ命令下シテ余輩ヲシテ遠
征ト命員下共ニ臺灣ニ行カサレシムル所ナリ
ガハ人間ケルニハ其遠征ニハ功制
ヲタメニ居ラセシニ在リ且シ命令下シテ遠征ニ

ニヨリテ支那ノ戦闘スルルノ部編ニ入リタ
然ラシガ君、領事官、
モシ其命令ヲ背キタラシハ、縛縛シ以テ其
灣ニ行クヨ、禁正スベキナリ、然ルニ其、
及カナルハ、何故ナルヤ、蓋シ余輩ノ其臺灣ニ
行クハ、必スシテ法ヲ犯スヤ、否、未タ知ルベカ
ラズ、且ツ当然ノ理ナクシテ、余輩ヲ押留スル
トキ、亦合衆國裁判院ニ於テ、余輩ヨリ償金ヲ
取ラシムルコトヲ恐レテ、臺灣ニ行クニ止
令、令ヲ出サシム、
直ニ、
官、
其、

勸、
皇、
事、
文、
令、
受、
然、
余、
輩、
ノ、
遠、
征、
ニ、
加、
究、
テ、
非、
ト、
シ、
テ、
駁、
議、
ヲ、
出、
ス、
ト、
キ、
ハ、
萬、
事、
其、
意、
ハ、
如、
ク、
ナ、
ラ、
シ、
ト、
ス、
能、
ク、
知、
リ、
テ、
機、
會、
ヲ、
テ、
一、
ハ、
議、
ヲ、
出、
ス、
ト、
ス、
ハ、
上、
ニ、
本、
政、
府、
ニ、
對、
シ、
テ、
又、
ハ、
余、
輩、
ニ、
對、
シ、
テ、
三、

トシタル意味アルハナク車
支那對シテ敵對ノ事ト思
加ハ君ノ諷ラサルトハ新信紙
ト掲ケタリ俱ニ歎シテト言フモ言ハセリ時
ハ諷人ナリテ邪推量ヲナサニ下又恐レテ凡
ソ日本今人ノアマリカ人ヲ用フルハ何事ニ限
ラス支那ヲ敵視スルニ當ルハ一切之ヲ止
マントセリ誰カ此事ニ付テ苦情ヲ言フ
者アリヤ蓋シ天皇陛下政府ハハ人苦
情ヲ言ハサレテシテ日本政府ハ余輩

ヲ留メタルハヒナカ公ト駁
ト言ハハヒシカハハフス對テ言ハシトス
曰ク彼等ヲ留メタルハ汝ニシテ我ニハナク
ス汝ハ萬國公法ニ據ルモ又ハ條約ニ據ル
モ千八百六十年ノ法ヲ施行スルニ及ハス
又戰爭ヲ始ムル前既ニ汝ノ使役ニ供シ且
汝ノ管轄ニ屬スルアメリカ人ニ對シ其法
施行セラルルヲ堪ヘ忍フニ及ハス所ニ我
敝議ヲ遵奉スルニ及ハス(第一号ノ實司ニ
スニ及ハス君ノ返答ヲ見ルニ若シス

此等ノ箇條ヲ併セ考ラレトキハ「シンガポ」君
ヨリ我レヘノ書状ノ文言ハ命令ノ意ニ
ハアラスハ忠告ノ意ナルヲ其書附ニ
衆國ノ印ヲ鈐シタルハ別儀ニアラス忠告
ノ文ヲ強クカタメシテ世々人ヲ留ムル
府ニシテ我レニアラス我レハ汝ハ非上ニシテ
書附ヲ出タシタルヲナレト
レニ言ハントス曰ク汝ノ遠征ヲ止ムルハ我
退カニシルハ何故ナルヤト尚ハ「シンガポ」我
レニ言ハントス曰ク汝ノ遠征ノ人台

トキハ遠征ノ中ニヤヤシク「シンガポ」思
且ツ「シンガポ」本政府先ヲ取りテ其人等ノ其
遠征ノ列ヲ退カシメサルトキハ其當人ヲ自
留ラシメント希望シ又ハ日本政府一旦其人
ヲ退カシムル上ニテ「シンガポ」ノ駁議ノ當然ナレ
ヲ證知シ熟考シテ其布告ヲ取消サシコヲ希望
セシナリ

第ニ
一九一八年ノ法。一九一八年ノ本
今衆國條約ノ事及ヒ一九一六年

場合ニヨリテハヒンカニ君屬ハホテテ
推アルレハヒンガムノ余ニ書状ヲ送リシ時
ハ其場合ニフラサル事ヲ考フルハ上文
事益分明トナルベシ試ニ此遠征ヲ以テ
スニ君ノ言フカ如キ支那ニ對シ敵對ナリ
業トナシ又ハ公告ナキ戦争トナシ又其事
ニガビタニカフセルレ及ヒヨウメシ君
其遠征前ヨリ既ニ日本政府ニ雇
ト見出ス今條約ニ而シテ
白

日本ハ合衆國ニ於テ海陸軍兵士ヲ雇
入レテ其籍ニ録セシムルカ權アリ
但シ合衆國ト相和スル屋下日空ノ戦争
タル間ハ是等ノ人ヲ雇入ルテ其海兵陸兵
トモテ使用セシムルカラスル而シテ日本戦争ヲ
始ムル以前ヨリ雇入ル其事アリカ人ヲ使用
スルハ此條約モ之ヲ禁スルトハ余輩ノ思ハ
レ所ニシテス君ノ言フカ如ク合衆國ノ國
會人ニ決議千八百十八年四月三日ニ決定
シテ局外ノ立法ヲ稱スルモノモ及

蓋しカカシカツカハワソソシ君父
予人長遠遠征ニ即ハル前合衆國台望遠外
ニテレハナリニス夫言ハルハ合衆國ノ
又千八百五十年ニ決議ヲ論セシニ國會ス
此決議ヲ施行スルハ其要支那日本暹羅
ノ諸國在勤ノ合衆國公使領事ニ推柄ヲ
與ヘテ以テ國ニヨリテ公使領事已前
推柄ニ委シテ是ラモル條約ヲ施行
セシメンカメテ其法ニ曰右様公
使等ハ各種稟首書符ヲ出スルヲ以テ合衆

國人ノ右様ノ國々ノ海陸軍ノ兵籍ニ歸シ合
衆國トシ和スル國トシ戰争ヲナサズトシ
ハ一國中一部ノ兵籍ニ歸シ他部ニ敵對
スルヲ禁スルヲ得ベシ是其持テ徵集スル
合衆國ノ兵隊ヲハ其カラ假サテ其法ヲ行
フヲ得ベシト

此法ハ邊カニ之ヲ見レハ甚タ嚴ナルカ如シ
ト雖モ實ハ今度ノ事件ニハ關係ナキカ
シ此法ハ合衆國ノ法ニシテメソカ人民
ハスルハ莫ク然リサレモ千八百五十年

邦衆國ノ條約モ亦其國ノ法ナリトシ
イトニモカバ日合衆國ノ憲ニ據ルニ其ノ條
約大統領ノ上院ノ説ヲ採リテ作シテ調印
タルモノハ國ノ最上ノ法律ト見做ス而シテ
其國ノ信ヲ失ハサルヤウニシ之ヲ行フニ必
要ナル律法ヲ立ツルハ國會ヲ義務ナリハ萬
國公法第二百二十六節第三百三十九面
サテ四百八十五十八年日合衆國ノ條約
ニ據ルニスミス君ノ言ヘル如ク合衆國ノ國
及タルノ身分存日本ノ使役ニ屬スル言ヒ雇

入レハ後ニイマタル戰争ニ勤ケル事
身ヲタテ或ハ日ノ事ヲメニ有罪トシテ
若シ此説ノ如クオラニニ國會ハモト國
憲ニ從ヒテ法ヲ立テ以テ條約ノ文言ヲ執行
セシムベキモノニシテ何ソ法ヲ立テ以テ
是同條約ノ文言ヲ空ウナルヲ得ンヤモシ千
八百六十年ノ法ハ合衆國ニ用フレ日本
用ヒニスト云ハク空論ナリハ百五十年
年ノ條約ニ據レハ日本合衆國ヨリ其カ
ケント謀ム言ヒルハ論ヲ待ム

今衆國 又日本國及

本國已 交際上其自由 權一全

依一才又ハ双方共是特權ヲ享ケルヲ妨

シク即チ千八百六十年ノ法ハ之ヲ行

方法ナリト言ハ、予モ亦言フ六キナリ

千八百六十年ノ法ハ之ヲ作ル者日本ニ用ヒ

トセシニ非ラスト人皆謂ヒ又作者其意ナ

キト必然ナリ元来其法ヲ作リシ主意ハ

列君ノ言ヘル如クアメリカノ危険ヲ好

就中ワルドハ一人支那政府

ヲイフニシテ、今謂フニ干預ニテナニ周

旋シタ此ヲ防制ニカクテ、殊ニ

ウイニ、頃々ニカクテ、取カ

於テ合衆國ノ國會ニハ支那ノミナラズ

凡テ是等ノ事件ノ再発スベキ國々ニ計

立法ヲ以テ之ヲ豫防セント心配シ又其法

ラニテテ防制セシカクテニ其國民中内亂

戰爭ニ兵藉ニテハ禁ヲ推シ廣メテ其國

合衆國ノ相和ス、何ハ凡テ海陸軍

支那量羅ニ至、上文ニ言フ所

及以全 台湾ニ集ル可ク之ニ令
 引君ノ考ケタルニ條ニ據ルニ皆其ノナ
 ン蓋シ一千八百五十八年日存合衆國ノ條約
 并八百六十年ノ法ヲ以テ動カヌベカラヌ且
 臺灣蕃地ハ支那帝國ノ一分ニアヲオレハナリ
 但シ之ニハ君ノ共支那帝國ノ一分ナル所以
 證セントシテ曰ハ事傍ヲ生著ハハ支那ノ
 開化セシ民多クハ居セシ島ノ部全ニ
 據スル者ニシテ取 國ヲ為ス者ハ其難有

石生蕃ノ想フニ其 靜ナルト 騷ナルトヲ問
 ハス島中ノ開化セシ部令ヲ取リ之ヲ所領ト
 為ス帝國ノ臣下ニ可ク予ル所説ニシ
 蕃ノ總令國ノ稱スルヲ得ルモ 箇ノ外國トシテ
 倣ハ可クテス各ノ狭小ノ領地ハ其於テ粗大
 ル政ヲ設ケルト雖モ皆支那ノ保護ヲ受ケル
 人行政ノ下欲スル管轄ト下ニ屬シタル所屬
 種或ハ社中ナリト看做スベキナリナリカ
 衆同也 衆人ニ示シテ見

部 六 五 三 見 言 一 如 日 夕
 此 爲 他 見 人 之 行 也 下 恒 力 毛 相 呼 呼 呼 呼 呼
 此 乃 之 子 用 之 工 意 以 土 人 之 從 與 下 也 太
 夕 之 子 之 下 欲 以 此 三 在 子 矣 土 人 十 何 其 用
 一 兵 十 戰 争 常 絶 へ 不 然 此 氏 始 子 子 上 上 是
 合 衆 國 之 民 藉 之 非 合 衆 國 之 大 配 人 者 非 又
 下 思 之 又 強 子 子 外 國 之 子 一 人 子 侵 伐 之
 子 之 子 合 衆 國 之 子 不 之 子 以 合 衆 國 之 子
 此 乃 此 所 崇 尚 拒 不 爲 不 之 子 亦 不 之 子 西 國 子
 此 乃 此 所 崇 尚 拒 不 爲 不 之 子 亦 不 之 子 西 國 子

臺灣土蕃アメリカ印度人

アメリカ印度人、臺灣ノ土蕃ハ互ニ相似
 タルトアリト思ハル、抑、メリカ印度人
 ハ其生活ヲナスヤ水草ヲ逐テ遷徙シ其住スル
 國ハ昂才白人種ノ植民セシ所ニシテ全地数ヨリ
 二屬ス北部ニ在テハイネリヲ二トト台外門
 部ニ在テハメキニコト合衆國十ノ印度人ハ
 學ヨリ生スル不汝ハ數國ノ互ニ相持ル者ニ
 リ存ズ、之ヲ蒙ル者言フハ多情トナル由ル
 然ニ其國支那ト並ニ全地

臺灣

之問在リテ支那人植民
ノ之ヲ一ノ實業ニ其貿易上并ニ収受上ノ益ヲ
億ヲ足ラス世界ノ交易上ニ喜ナル其直キ
ニ起ル或ハ不意ニ起ル利益ヲ價力ニ足

國ハ南洋ノ人種ニ對シテ
ハ其主義ニ對シテ南洋ノ
ノ人種ノ利益ヲ
南洋ノ人種ノ利益ヲ
南洋ノ人種ノ利益ヲ

支那人ホルル南洋ノ人種ニ對シテ其主義我國ヨリ
墨利加合衆國ノ土人本部ニ於テハ同日ニ詔
ルハカテス夫レ亞國土人ノ荒地、併シ南洋ノ
牙英吉利人等其地ヲ見出シ或ハ之ヲ略奪シテ
改羅巴中他ノ諸國ト相争ヒテ終ニ之ヲ獲ル
多年之ヲ領シ其各義既ニ定ニリ而シテ三國ノ
土人ノ不羈獨立ノ權ヲ奪ヒテ之ヲ報スルニ
人ヲ同化スルニ力ヲ以テシ事屬破ト雖モ竟
ニ其土
七
ト於テ其ノ實業ヲ為シ

丙
コト得ルヤ

千四百三十五年四月、英宗正統元年、支那人

ルモテ見出ス、此、由ラ

おしモサ本部ヲ以テ其有ト為ス、

立カレノ事

支那人、千四百三十六年、其邦人初々見

出シタルニ因リ、

領ナリト謂フ、

ハ支那領ト云フ名立カレ、

属セサル地、

得ヘケレ、

ト欲スル意ヲ表シ、

タリトモ、

蓋シ創メテ之ヲ見、

シテ政道上、

奉戴セ

ク

ニ係リ且直ニ其地ヲ取

ハ支那領ト云フ名立カレ、

属セサル地、

得ヘケレ、

ト欲スル意ヲ表シ、

タリトモ、

蓋シ創メテ之ヲ見、

シテ政道上、

奉戴セ

ク

一 見此... 海峽... 國... 旗... 樹...
 二 等ノ... 占... 欲スル... 意ヲ...
 三 足ルト雖モ實ニ... 法ヲ其地ニ布キタル者ニ同
 四 ト為ハテ得ンヤ... 四百三十六年支那人...
 五 湖諸島台湾ノ西岬ニ... 一島ヲ見出シ...
 六 時ハ是レ一モ之ヲ古領セシニ非ズ乃チ當時又
 七 那ノ一貴人名ヲ... 謂ハル者暴風
 八 二過ヒ一小島ニ漂着シ其島ヲ台湾ト名...
 九 ノ後地震ノ為ニ此島... 本島ニ
 十 遠ナリ... 元其地位ノ後チ又...

台湾見出し
ノ夏

一 莫シテ... 臺灣府ノ北西ニ里許ニシテ正
 二 三今人... 一小村落ト和蘭ノ古
 三 城ヲ云フ... 在リ此村落古城ハ載セリ
 四 諸地圖ニ見エ抑此島ハ五百年代ノ末カ或ハ
 五 千六百年代初ニ葡萄牙人其地ニテ新聞地
 六 余モタル名モ基... 元其地位ノ後チ又...
 七 宗起... 五七子... 題セリ
 八 千七百五十九年... 著シタル書... 第七冊
 九 四面ノ圖ヲ見... 支那人ハ此レヲ臺灣ト稱ス
 十 北海... 意ヲ

17

臺灣に止まり其地及び日國人の景情を探
シて後支那に帰レリ又千五百六十四年(明ノ世
宗嘉靖四十二年)エリ、カウ、イ、ト、ヘ、心、支那人
船隊ヲ率ヒ支那近海ヲ巡航セシ時不意ニ
タシ、百、ノ、ト、称、ス、ル、海賊、不、為、其、襲、ハ、レ、数、時、間、戦
闘、セ、ル、後、勝、ヲ、能、ハ、ス、シ、テ、先、づ、ホ、ン、ト、道、レ
次、ニ、ホ、ル、モ、一、道、レ、ク、シ、カ、不、知、案、内、ナル、海、岸
ニ、ア、ル、事、ハ、安、全、ナ、ク、ガ、ル、ヲ、恐、レ、再、ヒ、ホ、ン、ト、道、
帰、テ、終、ニ、船、中、ヲ、出、テ、去、レ、

和蘭人ホルモサ
一列、日本、人、ノ
其、地、ヲ、アル、ヲ
見、ル、事、

千六百二十年(明ノ光宗泰昌元年)ノ頃和蘭ノ一
船暴風ニ遭ヒホルモサノ海岸、台湾島ト相近キ
処ニ漂着ニ此地ニ日本人ノ住スルヲ見タリ
台湾島トホルモサ本島ニテ自然ニ形チ成ス
所、港、ハ、船、ヲ、泊、ス、ル、甚、タ、良、ナル、ヲ、以、テ、和、蘭、船
主、領、乃、チ、言、フ、托、ニ、テ、日、本、ト、交、易、ヲ、為、ス、ニ、此
港、ヲ、以、テ、和、蘭、人、泊、船、場、ニ、用、ヒ、タ、レ、ト、称、シ、台湾
島、港、口、ニ、一、家、ヲ、建、ツ、ル、ヲ、許、可、ヲ、日、本、人、ニ、請
一、ニ、一、牛、受、大、ノ、地、ヲ、得、ル、ハ、則、足、ル、ト、請、シ、テ
島、本、以、テ、之、ヲ、

功ヲ起シテ
許可ナリ得ニ時
自爲之ヲ結ラ以テ地ニ環ラシ一若ク築クニ
定ルク地ヲ取レルヲ六百三十二年(明ノ、宗十二
年思宗崇禎三)其若ク修復シ煉瓦造ニ爲シテ
其後日本ノ政道一變日之カ爲ニ外國トナク通
止ミ隨テ遠征ノ計皆止ニケレハホルモナク奪
略スルニ意モ赤止モ千六百三十四年
宗十六年(是亦、)和蘭人ノ台湾ニ未任ノ
ル者ニ思、増加セリ

和蘭人ノ
義國姓命ノ
爲ニ過ル

シ茅ヲ冊百七十ニ面ヲ見ク然レ其後韃靼人
明、支那ノ義國姓命全集ニ載ス不重ニシテ韃
韃、其、五、江ノ難、鞏、人、獨、其、外、
路、橋、番、人、之、石、接、ハ、サ、火、ケ、ル、ハ、國、姓、命、
破、ラ、ル、北、其、タ、ラ、ン、グ、
至、ル、十、次、第、其、地、失、正、千、六、百、六、十、三、年、
清、康、熙、元、年、終、ニ、其、皇、若、テ、
漸、心、外、
、

和蘭人ノ
義國姓命ノ
爲ニ過ル

和蘭人ノ
義國姓命ノ
爲ニ過ル

千六百六十三、巴里

開城降伏
誓ノ事

前記セシカ唯間城ノ事因虜ヲ交換スル事其他瑣末ノ事ニ止マレシト云ルヲトルコトスルハ此
毛サト題セル俺斯特桓夫元千六百七十五年
印ノ辱ヲ見ヨ
叔國姓命ノ支配久シカラスニ其子鄭爾立
時テ終身其王位ヲ傳テシカ千六百八十二年
熙十九年韃靼人其那全國ヲ平定シホル毛サヲ
毛莽牙其時ニ國姓命孫鄭克瑛位ニ在リ

其國ノ地界

ホルモ十國支那
支ニ屬ス

其國ノ地界

ガ其祖ト異ニシ不才徳無ク違韃人兵未タ在
岸ニ到ラサルニ既ニ降ヲ乞フ北京ニ護送セラ
レ其國ハ以時千六百八十三年康熙二十年
支那帝ニ屬セリ斯ク支那ニ降服シタル地ハ北
ハケラジグ南ハサマウハ或ハサマキ、テ
トイヘル地ヲ以テ反トシ而シテ東方トシレハ
東嶺ナヨリサンオシニ連スル間高キ連山アレ
ルカトモ支那ニ屬スル國境元來以漢マテ至ラス
全ケランガニラシク蓋シケレシクヨ
サン

年長海... 慶長十... 追... 台...
一千八百六十七年一月三十一日...
ラシグ港ノ運上... 長官... 官板報告...
現... 日...

康熙帝勅
撰屬國地圖
ノ事

パドリス... 千七百十二
年(康熙七十年) 五十... 康熙帝ノ勅ヲ奉...
ルモサノ地圖ヲ作りシカ(千七百三十七年)
エト... ノブル... フラ... ス... シ... ト... 題スル...
回第六回ヲ見ヨ... 和蘭製ノ此島ノ
海圖ヲ知りタルコト... 同上ノ地圖... 回ヲ見ヨ其

十八百七年刻
六九三ノ支那
領ノ國

即今ノ支那
國ニ...
モサノ支那
境界ヲ説ク

海圖ニ外國領ト土人ノ本部... 全海岸ヲ載セ... 此言彼ニ大ハ固ヨク中國ニ屬スル國土ヲ測量
スルハ勅ヲ受ケシモ其土人ノ本部ニ屬スル
岸ヲ測量スルノ命ニ受ケサリシオラシ其故ハ
之ヲ本圖中ニ載セサトハナリ又嘉慶十年(千
八百七七年)刻ノチャ... キン... 地圖ハ上ノ... 西洋
人人ノ測量ニ基キ... タル... 明... 家是亦同
シク土人ノ本部ヲ載セ... 又國人ノ移住ヲ勸ム
ル為... 勸... タル... ホルモ... 史地臺

清志

卷

三

計ウールル石氏ノ一六六一年ニ著セル新

約克印行ノ一六六一年ニ著セル新

第一冊百十一面云フホルモ廿八支那領

其本國ノ地圖ニ標ルニ島ノ半分餘ニ及フ

三ニ實ニ島ノ中央ニ互ニ連山ムカシニ廿

ニ到ラスト

此書中ニ官刻ノ地圖ニ載セサル所ノ部ニ國六

三象トリタル若石登積ノ邊東海ノ邊中ヨリ

日ノ出ルル間ヲ画カキタリ是

廿

彼地圖ノ者ルノ其地ヲ以テムカシニ前註ヲ

外ニ七里目存ルトモ為スベク又二百里ニ在

ルトモ為スベク即チ其画ニテ荒野

支那領上ノ關係アルトチ示スヘキ者絶

又其荒野ノ地ハ何レノ邊ニアルト判断スヘ

證據モトシ但荒野ハ支那帝國ノ外ナルト判然

知ルハキリニ是ニ文意上國界ニ屬スル書ハ

例法ヲ調カレ者ヲ取ラサル所ナリ支那人此島

其國固ニ載セザル所ナリ推シテ載セテ書中ニ

云々且ツ其言ニ云々

本丸三十一支那領ノ境

之領者、其解...
ハ、其ノ支那人ノ為ニ謀ル
更ニ好カルハ、其地ヲ知ルヲ
見出セシ事ハ、ナキ亦必セリ
事ニ云テハ、其地ヲ知リタルト云フ証拠見出
セ三事アリト云フ辨モ共ニ有リト為ス能ハ
支那製ノ地圖ニ申テ推知スヘキハ、オシモサ島
事支那領ハ、上文ニ記シタル連山ヲ...

限界ト為スノ一、此連山ノ外、其海岸因
ニモ海図ニモ載セシテ、以テ其人ノ知ラサル
地、其コト明白ナリ然レハ、其カ之サシトイ
連山ノ外ニホルモ、其本部ニ録スル地アリト
ヲ知ル所ノ人ハ、果シテ支那領ト此本部兩國ノ
界ヲ如何ニ定ムベキヤ...
抑、国界ヲ判然タラセシニ、其ニ國ノ間ニ山脈
アレハ、其頂上ト水ノ分カスル筋トヨク其境界
ヲ定ス者ナリ、連山ノ間ヲ分ツ用ヲ為スコト、
其ニモ、...

曰ク河内國ノ早知リ山ヲ以テ然ル國

界ノ為セリト然ルニホルニ至テハム、カニサシノ頂上

以テ境界ト為ス又要セス其故ハ國姓爺ノ支那

領ホルモサヲ奪略シタル以來支那ハムカン、十二ノ

麓ノ遙低キ小山ヨリ林へ出ツル能ハス又其

麓潜伏スルヲ防ク為ニ本部ノ土人小山ノ地

ノ山頂ノ方へ少許ノ間尽ク其樹木ヲ伐倒シ而

ノ人共清野ヲ以テ中間無ニテト看做シ秋ニ會シテ

互ニ交易ヲ為セリサハ以中間無ニ地則兩國ノ境界

ニシテ許ヲ待タズ此ヲ越テ流者必撃殺セラル

バカシ余余八百六十九年十月ヨリ七十年三

月ヨリホルモサ島ノ北ヨリ南へ指シテ涉遊

シカ當時千八百六十七年著作ノコム、フロ

ホルモサ海國ヲ携入シ境界ヲ之ヲ書入タリ

半ハ平地ノ支那人ニ就テ聞ク所半ハ余カ親

歴見スル所ニテ自保シテ誤ナキ者トス(千八

百六十九年)合衆國ニメルレヤルリレー

ス題スル書ノ百八ヲ見ヨ

下六六六十六

姓人師ノ臺灣ヲ取リタシ

ニ由テナルモリ

部又支那領トナスヘキ

前條ニハ創見シタルニ由テホルモリ本部ハ支

那領トナスヘキノ各義立ナルノ更テ説キタリ

今此條ニハ奪略ニタリニ由テ其各義ノ立ヤ

所以テ説カントス下ノ各義

國姓爺本部 國姓爺ハ早ク死ニテホルモカノ海岸ヲ全ク

ノ土人ヲ討テテ 取ルハ功業ヲ成ス能ハカカリヨ蓋シ此ニ注意

下リテ年百六十二年條約取結後兵ヲ出シラハカシ即テ

碧玉山トテ西洋地圖ニモ示リシト稱スル山トシ

近傍ヲ本部攻ムトテ數回以テ其地ヲ略取

ニ其是ヲ降ナシトセリ然ルニ其後皆退シ

其ノ大國其兵ヲ失ヒ終ニ其意ヲ断テテ後

國姓爺方ニ向テ兵ヲ出シテ者ナラズウイニハ

説ニ據テ支那人ハ其地ヲ奪ルモ本部ヲ奪略スル

意ヲ断テテ以テ天ノ命ヲ祈リテ所ナリトイハレ

由蓋シ是ニ由テ本部ハ其地ヲ奪ルモ本部ヲ奪略スル

山兵ヲ進出スルニ由テ本部ハ其地ヲ奪ルモ本部ヲ奪略スル

時ニ燧火ハ其地ニ至リテ本部ハ其地ヲ奪ルモ本部ヲ奪略スル

すう米子ハル方、報也ニトテ大ナル碧玉ニ箇
以て矢ニシテ公国姓爺ニ余ニ從ヒ退軍セリ是
於立媪又国姓爺ヲニテ兵中尤美ナル石ヲ以テ女神
觀(支那ノ)セシメ又ハ女神ナリ(西洋)不印ナリ彫刻ニ有
名ノ觀音堂ノ龕上ニ置方云云ル今約シ他ノ一
箇共帶々扣金ニ作テ自ラ之ヲ用スルニ任
然レ三國姓爺降後其約ノ始也又刻ハ餘
ニテ其尤大ナル者ニ也ル若ク刻セシム刻成リテ
其印ヲ納ム國姓爺取テ之ヲ看ルニ文字自ラ彼女神ノ
名ニ見テ下シル怒矣是ヲ磨消シ更ニ巴レム白ヲ刻

支那人好照
鏡ヲ以テホル
ニテ本節ヲ
書ハント欲シ

25

也ニテトシテ刻ル所ニ字復々神名ニ見エタリ
是ニ於テ國姓爺大ニ懼ヒ慎之ヲ女神ノ龕上
ニ奉納セリ蓋シ初メ國姓爺ニ碧玉ヲ與テ又
老媪ハ即テ女神ノ化身ナリ下テ千八百六十年
八月ニ寺カスホルハ英吉利集會及ヒ地理研究
社ハ席ニテ臺湾領事工及ヒ工ヲシテエス
此ハ此其ナシハバカク讀ミ止メテ久クホル
縣記ノ第十七頁ヲ見テ
其後支那人智勇ヲ以テ一勝ヲ能ハサルカ
知テ公ニ謀爾ヲ以テ其意ヲ遂テテ未欲レ本

恐ラクハ
重後

其謀成ラカ
ルノ事

越ニテ本部ノ土人ニ向ハス實ニ東岸ノ一港
其於テ水ヲ位マシムルキノ地ヲ撰ビ一小船ヲ
其港ニ送リケルニ其地ノ土人善ク之ヲ遇セリ
然ルニ其土人ノ多キヲ見テ疑懼ハ心起リ敢テ
此地ニ止マレノ勢ナク其策ヲ失スルヲ以テ終
ニ後夕去ルニ決シ出帆スルニ至リ歡情ヲ
表スルニ托言シテ土人ヲ招キ宴ヲ開キ之ニ酒
ヲ飲マシメテ其醉ニ乘テ不意ニ兵蓋ヲ以テ襲撃
シ多ク其土人ヲ殺シ其餘ヲ逐散ラシテ而テ手当
次第ニ物ヲ奪掠シテ其地ヲ去ルニ及ビ

此事件ノ報告ヲ聞クヨリ早ク居民皆一同ニ兵ヲ
率テ支那ノ属部ニ侵入シ手ニ當ルヲ輩ニ老弱
男女ヲ擇ハス不ク殺戮シ其家屋ニハ火ヲ放シ
テ燒キ失ヒタリ此時ヨリ以來此島中ノ南部人
間ニ烈戦劇闘常ニ休ムナク無シ(ラハヤ工氏海
旅通史第ニ卷第四百三ニ面支那帝國海旅ノ部
方今ハ平地ノ住民等貴重ノ材木沢山ナリ
樟腦産出ノ地方ニ至ラニカ為ソニ土人又領
地ニ立入レテ就中台灣府ノ北方ニ行ク者多
ク之ノ力ニテナラズ山地ノ住民ヲ中央山脈ノ西

麓ニ在ル地面ヲ備フニテ謀レリサレトモ士
人等必ス彼等ノ地新規ノ求需ヲ許サザルベ
ク且若シ其能ラ尽スニ至ル時ハ必ス現今
ノ境界ヲ更ニ推シ進ムルヲ拒ムテ下思
ヒケレバ彼等土人ノ交親ヲ好ムル機
業ニ種々ノ更改ニ托シテ土人ヲ招待餐
應シ多ク酒ヲ勸メ充分ニ酔ハセシ上テ
之ニ贈ルニ美素ナル衣被ヲ以テ之ニ豚
殺シテ之ニ食ハシメノ饗宴ノ終ニ夫
ル後ニ衆客和親ノ中ニ約定ヲ爲ス

リ翌朝ニ至リ憐々可シ酒始テ醒ヌ其約定ヲ為
セシヲ悔ヒ昨夜ノ贈物ヲ為メ己等カ大切
財物ヲ奪ハレシトテ恐ヒテ之ヲ返サント請
ヒ然レモ收猶ナク夫レ個此約定ヲ破ルル
相テリ之ニ由テ西人種ノ間ニ新夕ニ怨忌ヲ生
シ華國ヲ起シ昔時荷蘭人管治ノ時ニホルモ
人ト外國人ト石交際ニ大ニ土人ヲ開化ニ起カ
シテ其懇親ハ美意ヲ失ヒテ終ニ回復スルヲ待
テ其地ハ此島ニ在ル其地ハ唯土蕃ノ地ト接
スル故ヲ以テホルモ可土蕃ニ其權利有テ可

其非... 支那人... 於其境... 於其毫毛進以タル... 於其昔時... 於其如之... 於其德... 於其無... 於其依... 於其島... 於其推... 於其一... 於其元...

君主ノ權ヲ
行フニ就テ分
割シ難キ國
土ヲ管治ス
可キ君主ヲ
ル權利主ク
ル權内ニ在ル
國ニ對シ主ク
ル權ヲ行
フ

君主タルノ權内ニ在ル國ニ對シ主クル權ヲ行フ事
アリトシテ曰ク(万国公法) 第二百
六十一條百六十五條(何レ外國ニテモ他國ニ主
地ニ入ルニ住居セザル者ニモセヨ或ハ夷蕃ノ住
居スル者ニモセヨ之ヲ同化シ或ハ其法別ヲ生
シルヲ得ルニ非ラザレハ其地ヲ合併スルノ權
利無シ此國ノ君主タルノ權利ハ唯其實ニ之ヲ
行フ時ニ在リトス其故ハ居有ノ理ハ全ク
自然ト天命トニ依テ一國民ノ有様ニテ住居シ
自ラ邦國トシテ法制ヲ立テ居ルト謂ハル事

實ノ上ニ基ケル者ナレバ然ルトモ若シ一
 國民(支那)ホルモテ於テハ事實ノ如ク野蕃
 今住居占有セル廣大ノ土地ヲ總テ我ノ有ナリ
 卜積シ適子久君主タルノ權利ヲ及ボシ其實ハ
 全ク其人民ノ開化シ或ハ管治スルヲ得サル時
 ハ則チ此國ハ其人類ノ物ヲ守護スルヲ爲サズ
 シテ却テ他國ヨリ此地ニ新邦ヲ建立シテ之カ
 法制ヲ護クルヲ妨クル故ニ此物ノ利益ヲ得ル
 天運延セシムル者ナリ眞實ニ居
 此主ノ下ニ居ル者ナリ

一、時或ハ微シノミ
 ノ居有ニテハ其
 テ其權利ヲ得ス

有ニテハ其權利ヲ得ス
 一時假リニ居有ニ或ハ其微シクハ唯
 總カニ被廢スル權利ヲ生シ得ルハ是故ニ一邦土
 且表ニ院ニ他ノ國ハ有ト爲リ居ルトモ唯其外見
 際ノ公法ヲ破ルルニ非ラズルモ廿土蕃ノ如ク國
 主ニ於テ之ヲ管治ス下稱スル者總カニ空想ノ
 權利ヲ有スル者ニ於テハ殊ニ然リトス
 此七十年土蕃ノ事情既ニ斯クノ如ク千七百年
 代ノ始ヨリヨリ以來是ニ變化無シ今知ル第五号

一、時或ハ微シノミ
 ノ居有ニテハ其
 テ其權利ヲ得ス

千八百六十七年
將軍リウノ征行ハ
唯一時ノ居有ニ繼
リテ故ニホレモサエ
善ニ對シテ支那ノ
地位之ヲ為ニ交換
セシメテ無シ

全カ問ニ答フ也ス
氏ノ言ニ近頃(千八百
六十七年)支那ノ將軍リウノ者余ヲ護送シテ
其モサノ南地ニ到リシ時彼明白ニ全地ノ支
那管轄ニ屬スルヲ云ハル其說至極精確ナリル
思ハリト言ヘリ若シクモ余自ラ言フ所ノ如
ク書物ノ不足ヨリシテ余カ問ニ應ズルヲ答テ成
シ得ザルヲ免カレタランニハ必大此事ニ就テ
其說ノ證據トシテ掲グル所ハ恰モ余カ
論ノ全カ之ニ反セシ說ノ事ニ基ク所ノ者
上相同シキヲ知リタルナリキ支那官人其時

其時
支那
官人
其時

千八百七十七年
千八百七十七年
千八百七十七年

ニ於テ全島ヲ支那ノ管轄トシテ其理
有リ然レトモ是永統テ有様ニ於テル者ニ非ズ
千八百六十七年十一月七日北京ニ在ル英國公
使ニ呈スルニ余カ答上ニ左ノ事ヲ記セリ白ク堡
砦ヲ建造スルヲ將軍リウノト余カ以テ常ニ爭論
スルニ支那ナリ彼若然之ヲ拒ム非ズ即チ其
支那人ニ利益有ルヲ承認セリ然レトモ總督ノ
諭旨ニ不明ナリ所有有ルカ故ニ彼ニ福州或ハ
北京ノ官衙ト相談セシ上ニ此ニ答テ未タ之ヲ建
築スルノ權ヲ許サレタリトハ覺テキリシカ

為ノナリ余者如キ猶豫ニ順從シテ余カ究達
ヲ延引カ可キ非ス而シテ猶堡塔ヲ要セテ是レ
從來久シク支那ノ管治ヲ奉セカレ地ニ其改權ヲ
示サシカ為ルナリ其故ハ此堡塔者レハ「カ」カ人
種善シ其約束ヲ忘失スルナリ有ニ時余之ヲシテ教
畏ス聖所存ヲキルナリ思ハルナリ且又專要所
又レ所ハ此荒海各難破ニ苦シク衆多ク又レ為
ニ逃難ニ場所ナシ可キ故為ルナリ在後論此論
君主張ニ遂ニ假ニ堡塔ヲ築カ擇ニ地ニ建築
ス可ク且其地ニ石地ニ門ヲ備ヘ常備兵少許ヲ細兵

十八日
十八日
十八日

81
一百人ト曰置カテ其約定セリ余ヨリ直チ
願ヒ出テ尚一層明白ナル余令台湾府ニ達スレ
ケラハ速カキ此條條約ヲ變ニテ永続ノ本條約
ト為ス可シトナリ丁リ余總督ノ余ニ言ヒ言フ
食ハ可シトバ思ハス且ク若シ之ヲ破リテテハ斷
然閣下ニ許ステ諭示ヲ請フヲ得可シト思
ヒ之故甚ク満足ノ喜ヲ述ベタリ前ハ
儲又將軍ノ信義ヲ守ルルハ感服ス可キ事ナ
其ヨリ二日ニ後チ椰樹ノ材不及ヒ砂囊ヲ以テ
圓形ノ堡塔ヲ建築ス因テ余將軍等ト同伴

十一

此之ヲ見分セリ此堡中ニ西軍一百人
兵卒アルヲ見分セシ此堡内ヲ公目ヲ閉テ
然レオリキ蓋シ此堡ト見分テ大砲ハ約定
ノ如ク唯ニ門ニアラスレテ三門ヲ備ヘ有
ル其上ニ支那人旗ヲ建テ置ケリ
既ニテ早ヤ終末ニ至ラズトセシ時將軍余ニ以
官ニ屬スル双眼鏡ト行能器具トヲ渡シタリ余
目ニスホキトシ不体ヲ持テリトスホキトシタリ
余亦贈物タル赤旗ヲトキタリトシ持行カニト
テ去リタリ余ハ支那人官負ト此征行ノ成功ヲ公

千八百六十七年
廈門ニ在ル官衆
國領支官改シ
テ曰ク支那人千八百
六十七年ノ間一時領
シタル地ヲ其年ヨリ
後ハ之ヲ捨ダリ

文ニ書定ムルノ用事有ルノミカリ此等ノ書物
リヤキヤ此堡ヨリトスホキトシ此堡ニ至ルニテ土着ト
支那人トノ間ノ此人間リ義務ニ於ケル共同ノ
責任ヲ立定セリ是征行ノ始末右ノ如クナリ
千八百六十九年ノ二月ニ支那政府ノ實ニ上文ニ云
フ將軍リウノ處置ヲ遠ケシメントスルノ意
有ルヤ否ヲ知ラニト欲シテ譯人ト共ニ再ヒアラ
ルモサレノ南地ニ往ケリ此譯人ハ一月前ニ余
ト共ニ此地ニ至リシ者ナリ且ツ支那政府ニ備
ハレ居テ支那領ヲカラムサレ南地ノ收税官ヲ

勤ムルニトスルマシトシ同儀セリ左ノ文ハ
余カ公使ニ呈セシ書上中ノ千六百六十七年
將軍リリカ「ト」ホビニ建築セシ仗堡砦ニ關
各七部分ノ抄出ナリ
此ヲ各キ終ル前ニ一事慨ク可キコトヲ閣
下ニ報告セサルヲ得ス臺灣ノ土蕃ハ其信
義ヲ守リ居ルニ支那人ハ勿論左アル可キ筈
ナルニ却テ程約定ヲ十分ニ固メサルヲ得サル
形アリ此國ノ事ヲ公使及本國ノ官亦
固令セテ院庭定マテントセル時支那官其

ト余ト談合シテ「リ」ヤウレノ地ニ民政及
兵制ノ法則ヲ立テニコトヲ北京ニ請ヒ
若シ帝ノ高官ヨリ之ヲ許ルヤレシナラハ
トスホシニ堡砦ヲ築キ以テ故水師副
總督「ベル」及「卿」等カ前役ノ持論ニ副ハ
ニト欲セリ昨年五月「ミ」ストル「ウ」ナルム
カ余ニ教テ府官ニ北京ニ在ル上官ノ命令
「此」見「ト」一致ニ於テ出テタル者「ヲ」奉ス可キ
由ヲ迫ル可シト云ヘリ余因テ之ヲ府官ニ請
ヘリ而シテ最初ニ總督ヨリ承知ノ答ヲ得又其

後帝ノ委負ヨリ得タリ然レモ忽チ余ヲ欺キ
 知ルヲ發見セリ余其場ニ居テ為セシ事ヲ
 見サリシ故台湾府ニ於テツエニ夕エニカ此事ヲ
 台湾ノ官負ニ談セシヲ見サリキ今ニ至テ見ルニ千ハ
 百六十七年ニ將軍「リウカトスホ」ニ建立セシ
 後堡砦ハ廢棄シ其内ニ在ル大砲ニ門及守
 衛ノ兵卒ハトシエホニ差度サレタリ彼等ノ去ラニ
 此地第三ノ測量有ル可キカ故ニ然カセシナリト云ヘリ
 依テ新夕ニ北京ハ出願セサルヲ得ス方今此事再ニ
 北京ニ於テ起リタルカ故ニ之ヲ閣下ノ注意ニ

支那ハ千八百六
 十七年ニ時領
 シタル地ヲ捨テ
 タルノ證據ハ
 追加即千八百
 百七十一年美國

任カセテ後來ノ諭示ヲ待ツ
 此ニ由テ之ヲ觀ルニ千八百六十七年ニ將軍リ
 外ハ與ヘタリシボニサノ南ニ在ル土蕃ノ部ヲ
 領セシトスル意ヲ表ハセシハ唯之ニ次クニ居
 有テ以テセサリシノミナラス實ニ此企謀ヲ廢
 セシナリトスポニノ堡砦ヨリ大砲ヲ移シ去リ
 シニ由テ之ヲ證ス可シ是故ニスミス氏ノ論遂
 然ニ地ニ落タリシニ其意ニ對シテ
 然ニナカラ事之ニ止マラス千八百七十一年七
 月二十八日ニ台湾府ニ在ル英國領事官美國ノ

女王陛下ノ領事
官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

官

千八百七十四年日本人
往復交通ノ経験
ヨリ出ツル證據

リ此島ノ南端迄ノ地ハ未タ支那人ノ有セザル
無カリ云下ヲ聞ケリ(千八百七十二年四月十七
日附北京ニ在ル米國公使ニ呈セシ余カ書ノ出
板ヤシヲ見ル可シ余カ手ニ一本ヲ持テリ
昨月二十二日ニ委負等シヤリアオニ到着セシ
時土蕃ノ南北ハ支那ノ管轄ニ非ラサルノミナラ
ス支那ヨリ其管治ヲ建立セシトスルノ事無キ
ヲ見タリ今之ヲ管治スルノ權ヲ求ムレトモ當
時之レヲ表スル官府モ無カリキ
ドクトルルウサルレムス著書ニツトルルキ

千八百七十二年
合衆國ノ領事
官經歐ヨリ出
ツル證據

其船將及ビ乗組人十人土蕃ノ手ニ落タリシヲ
聞テ其副役ナルレニヲ其場處ニ送リタリ其地
ニテ其取扱ハ事ヲ自筆ニ記セシ書状ヲ見
此時ニ於テポニリ以南ノ地ハ支那人ノ有ニ非
テヤリシヲ知ルニ足レリ
千八百七十二年三月ニ南地十八種ノ首長ノ請
依テ再ヒフタルモサ南地ニ往キタリシ時ハ米國海
軍士官三人ト同伴セリ此時余牡丹種人ノ琉球人
ヲ救ヤシ始末ヲ問ヒシ序テニポニリヨ

臺灣番地ハ支那人未タ嘗テ之ヲ領レタルヲ之ナキノ歴史上ニ證據無シ其國ノ支那帝國ノ一部ニテラサルヲ支那役人ノ承認セシム

シグドムニ引ケルゴウシト、ドボシヨ
 スキ千七百七十一年ニテフヲモヤ
 ノ東岸ニ到リシ時土蕃ト談話セシ
 ノミナラス人種等ノ争鬭ヲ援ケシ
 コトモ有リ且ツ支那人ヲ聞見スル
 事モ無ク又土蕃ヲ領スル官府モ
 無ク殆ント其所ニ一國ヲ建立セ
 ントセシニ至レリ
 千八百六十七年ニ余土蕃ノ首長ト相談
 及ヒ時ニ余ト贈答ノ言ニ此島ノ支配者自身

出スノ言有リ條約ノ十一條及十三條ニ(米國ト
 支那ノ條約ナリ)曰ク海岸或ハ海上ニ於テ米
 官管内ニテ米人ヲ苦シムル者アラハ官府或ハ
 兵部ヨリ其力ノ及フ丈ハ罰ヲ行フ可シ然レ
 トモロベル號ノ事件ニ於ケルカ如ク米人若シ支那
 ノ領地或ハ支那海ニテ殺サレシニ非スレテ南
 方人種ノ有スル地ニ於テ殺サレシナラハ此條
 約ニ依テ償金ヲ求ム可カラズ若シ殺人ヲ捕フ
 ルトモ吾カ権カノ中ニ有ラハ支那人ト外國人ト
 交際親和ヲ失ハスレテ吾喜テ之ヲ為ス可シ然

レトモ野蕃ノ地方ハ吾輩ノ境界内ニ在ラナル
故ニ云々(合衆國ヨシナルレアルレイレヨ
千八百七十一年ノ部百六十六枚ヲ見ヨ)千八百
六十七年九月十日終ニ支那ヨリ土蕃ヲ征スル
ノ兵ヲ送レリ然レトモ支那帝ノ政府ハホル
モサ土蕃一ノ支那ノ關係スルニ其官負ヨリ出セ
レ上奏ヲ見ス却テ支那政府ハ土蕃ヲ帝ノ
管轄トスルノ意無ク唯野蕃ト親和シテ爭端ヲ開
カナルヲ欲スルト上ニ引ケル奉行ノ書状ニ見ル如キハ明白
ナリ且支那領地ニ近キ海岸ニ外國ノ軍兵上陸セシ事ノ不

都合ヲ免ガレシトイハスルト亦明カニ此等野蕃
那將軍ノ為セシレハ米國領事官タル余等對シ
是其様子ヲ見スルナリ且余カトモ其ノ領地
迄余カ國人ヲ殺セシトテ查問スル為メニ独行
皇帝政府ノ為大ニ拒ミタル度業ヲ其管治ノ届
ガサ山地ニ取行セタルニ是余カ思所及ニ米國
政府ニ諭示スル所ニハ必要ニ思ハレシト
未ダ其ノ事ニテハ余カトモ其ノ領地ニテハ
其ノ事ニテハ余カトモ其ノ領地ニテハ
其ノ事ニテハ余カトモ其ノ領地ニテハ

其政府ノ其管治ヲ辭謝セシ者トハ見エヌス
列氏又ヨク此國ニ於テ^{其部族}ウシテ其行ヨリ生スル
兵復ヲ以テセスレテトキトクト談判セシテハトキ
列^{其部族}後^{其部族}支那政府ト條約ヲ結テニ是ル權勢有リシヲ知リ
カレナルヘシ米國領事官カ別段ノ權モ無ク米國ノ爲ニ
余輩^{其部族}過去ノ復ヲ忘レズト云フテ支那ノ爲ニ
云フ可ト南人トテ^{其部族}其部族トテ^{其部族}是レ^{其部族}是レ^{其部族}
是レ^{其部族}依^{其部族}テ^{其部族}ス^{其部族}氏何^{其部族}支^{其部族}ヲ^{其部族}モ^{其部族}証^{其部族}セ^{其部族}ス^{其部族}先^{其部族}第^{其部族}
余^{其部族}カ^{其部族}教^{其部族}示^{其部族}ホ^{其部族}十^{其部族}分^{其部族}ナ^{其部族}リ^{其部族}余^{其部族}カ^{其部族}ト^{其部族}キ^{其部族}ト^{其部族}ク^{其部族}ニ^{其部族}話^{其部族}セ^{其部族}シ
辭^{其部族}ハ^{其部族}彼^{其部族}等^{其部族}之^{其部族}ヲ^{其部族}尤^{其部族}ト^{其部族}聞^{其部族}ケ^{其部族}ル^{其部族}余^{其部族}カ^{其部族}兇^{其部族}犯^{其部族}人^{其部族}ト^{其部族}其^{其部族}罰^{其部族}ヲ

行ハントシ及ヒ以來右等ノ兇惡ヲ行ハシメサラント
スルニ支那官府トカチ合ハセント欲セリ第二ニハ將軍
リウハ談判ヲ為スノ權ヲ有シ且之ヲ行フヘキ

後ニツク

此頁ハ新譯ヲ感スル蘇ヲ所ニ且之モ譯ヤハナ
スルニ支那官商ノイハレハ冷ハナシト爲メテ第ニニ譯
於ハレトイフスルニ此本亦善ク訳スルモ此ハ支那ノ

彼等ハ支那人ヲ指シ其國人ニモ外國人ニモ約
シタル保護ヲ得セシメカク爲來使ヲ遣ハシテ
此商長ハ是ヲ支那官吏ト共ニ一軍ヲ分給
シテナク後來亦一軍ヲ分給セシメテ答
ヘテ一八六八年合衆國交際報告支那
第一部第五百零九葉ヲ見之ニ孫テ支那官吏
人徒ニ傍觀シタル者余カ一々成語ニ多ク
顯然クテ支那ニ敵シタ後嗣在知事ノ支那
領者管轄セル福建ノ都督左ノ文春夏布岩在
其國曰ク官吏

合衆國領事官後來用フヘキ旗章ノ変ニ付テ生
蕃酋長トキトスル契約ヲ爲シタル蓋シ後來其
地方ニ於テ艱難ニ遭フ外國船艦其旗章ヲ揚ク
ルハ生蕃力ヲ尽シテ救助スルニ然ル其地ニ
用ナキ商船ニ乘組タル外國人上陸シテ煩累生
シ生蕃之ヲ殺シ若クハ不當ノ接遇ヲ爲ス兵船
長其責ニ任セサル可シ之ヲ依テ合衆國領事官
ハ其旗章ヲ用テ此種艱難ニ遭フ商船ニ少ク限
ルヘキトスル約シタリト右ノ變々合衆國ニ其歐羅巴
諸新聞ニ載セテ公告シ英國ニ不佞回文ヲ

以テ支那ニ在留セル其國領事官等ニ報告セリ
茲ニ想起スヘキトアリ都督ヲ布告中ニ余ニ与
ヘタル護兵ヲ指揮セシゼリタルノ事ヲ載
セス是レ何故ナリヤ蓋シ支那ハ其酋長ト契約
爲シタル種族ヲ管轄スルノ權ヲ有セス生蕃
酋長支那使入ト契約ヲ爲スヲ肯ニセザレド
エナリ若シ否ラサレハ當時其場ニ居合セタル
支那官吏一人契約ヲ爲シテ合衆國領事官ノ
契約ヲ爲スヲ要セナリト云フ此契約ハ一千
八百六十七年ニ之ヲ定メ一千八百六十九年ニ

月再々確定セリ但之ヲ行ヒタルハ支那官吏
 非スレテ余自己ナリ契約書ノ證人トナリタル
 者二人(千八百六十九年合衆國交易關係第九十
 二葉ヲ見ヨ)一ハ英人一ハ南ホルモサ租稅委員ト
 記名セル支那官吏マシ氏ナリ若シ支那是等ノ
 種族ヲ管轄スル權ヲ有セリト唱ヘシテハ其所
 領ノ寸地尺土必リ其詳知スヘキ租稅官吏甘シ
 テ其政府ノ權ヲ全ク認メサル文書ノ證人トナ
 シザリト必セリ但シ此文各ニ記名セル彼等
 トセバ答ヲ受クヘキ理ナリ故ハ方今北京ニ行

支那ホルモサノ蕃
 地ヲ占メサルハ其
 人民教化スルカ
 サルニ由ルト云フヲ
 以テ適時トスル
 能ハス

年致恐テカハ誤リ
 ナリ原史ヲマ譯ス

樞要ノ地位ニ在リ
 或ハ支那ニ對シテ其人民ヲ管束スルカ
 事ヲ開化ス可カラサルニ由ル其然レヨ
 人民ヲ開化ス可カラサルニ由ル其然レヨ
 リ余カ自己ノ經驗ノミナラズ一千六百六十二
 年ヨリ一千六百六十二年マテ島ニ占據シタル
 和蘭人ノ經驗ニ依テ(上ニ引用シタルトスルヲ
 小止其申スルモ并々又ナリトシテヨシトスル
 可シ此ホルモサノ第三十一葉ヲ見ヨ其然ラサル

ヲ證セリ和蘭人占拠ノ時ホルモサ人外國字ヲ
以テ其國語ヲ各クテ解セシム和蘭ノ著作者
亦此モサノ事ヲ記セシ各日載セ又和蘭ノ管下
ニ在リシ種族ノ子孫ニ傳ハリタル書券ヲ以テ
證トス臺灣府ノ領クトルモホスモ此余ニ一
人各券ヲ贈レリ余今其眞ヲ藏ス又其國語ノ
字書ヲ檢スレバ和蘭ノ管下ニ在リシ時其他ノ
亦開化元進ミテ見ル可シ其字書中開化國人
ノ用ナル物品ノ名稱文明人種ノ名限リテ
思想ヲ表スル言語アリ(余大蔵スルハツパル以

此ノ書ハ
和蘭ノ
領土ノ
開化ノ
證據ト
スルモ
其ノ
字書
中ノ
開化
國人
ノ用
ナル
物品
ノ名
稱
文明
人種
ノ名
限リ
テ
思想
ヲ表
スル
言語
アリ

ヲシヨナリトシ及テ其モサリシセウナルテ
スレテ見ヨ
斯ク開化シタル土人今日存在スル者甚タ少ナシ
コキシシガ國姓島ヲ攻取シタル後土人ハ支那
人ノ為メニ土地ヲ奪ハレ其奴隷トシテ驅使セ
ラレタルヲ以テ其居テ去テ山麓又ハ山中ニ遁
レタリトコトヨリ直東ニ當レル東岸ノ地ニ是
等ノ土人ノ適トタル殖民所アリ思フニ其他猶
許多ノ殖民所ナラモサニ生蕃地ト名クル西洋人
ハ亦タ探訪セサル土地ニ散布スルナラン

ホルモサハ蕃地ニ
於テ自ラ無限ノ
獨立專裁ノ主權
ヲ有セリト主張
スルノ理無キヤ

交誼ヲ結ヘルハ「カス」族（ベツボス）族ヲ殖民所
ノ後口ニ當テル「アラモサ」諸族ハ猶ホ其古據
セル土地ニ於テ自カラ無限ノ獨立專裁ノ
主權ヲ有セリト主張ス支那人野蕃ノ古據
セル土地ニ接近セル半開國ハ蕃民及谷人ノ意
ニ違フトモ其土地ヲ取テ所有トスル萬國公法
ニ依リ恰モ合衆國ニテ亞米利加ノ「インヂヤ」人
ヲ管轄スル權アリト稱シ英國ニテ「新ジブラント」
及「アウストラリヤ」出人ノ獨立ヲ奪ヒ之ニ開
化ノ福惠ヲ興ヘテ償トスル如ク十分ニ其管轄

ハ權ヲ有セルヲ表スル至ルマテ其土人ノ
主張スル所依然トシテ變スルヲナシ
ブリュンツケリ氏万国公法第六十五葉ニ曰ク標
準ト為スヘキ処置ハ「ニコロ」・「インヂヤ」
元「^{ロリタン}教徒及「^{ニルバ}ニヤ」ニ於テ
セント欲スル土地及ヒ殖民ニ讓ラント欲スル
所有ノ權ヲ「インヂヤ」人ヨリ買ヒ取ル可シ殖
民既ニ繁殖セントスル勢トナリ開化國ニ位シ
タル人民其家族ト共ニ来リ住スルヲ得ルニ至
レバ殖民ヲ保護シ其土壤ヲ有シテ他人ノ妨碍

ヲ受テカレシメ蕃民ヲ開化スルヲ勉メ此
可カラズトホルモサ生蕃ノ形況此ノ如シ彼等
ハ獵ヲ專ラシスレバ唯其獲ノミヲ以テ食トセ
ス老衰虚弱ニシテ獵ノ勞苦ニ堪ハカル者ハ田
野ニ出テ婦人ト共ニ耕作ヲ為シ稷及ヒ其他ノ
食物ヲ收納シテ種族ハ食ニ供シ婦人又衣ヲ
織ルヲ業トス其地ノ耕作セル處ハ實ニ富饒ノ
光景ニシテ農業人巧ニナルヲ余ハ東洋西洋
於テ親シク目撃シタル所ヲ以テ見レハ何國ノ
人民ニモ讓ラサル可シ彼等ハ村落ニ群居シテ

家屋ハ日本ノ民家ニ類シ清潔ナルヲハ支那人宜
シ師トシテ之ニ倣フ可シ諸族ハ一王ト下ニ立
テ一國ヲ為サズ各族若クハ教族自由ノ制度ヲ建設
シ各人其業ハ酋長若クハ撰舉シタル役人ノ命ニ
從テ同安全ヲ為シ共ニ力ヲ盡シ神ヲ信シ又支那
人ノ如ク造化ノ陰微ナル感應アルヲ信ス然レバ偶像
ヲ拜スルハ風無シ方今ニテハ文字ヲ書スルハ法無シ
ト虫尾辨論謹慎智慧ヲ重シ以テ通常此三徳アル者ヲ
選テ役人トス其性ハ甚ク文雅ニシテ至六百年代和蘭
人ヲ島ヨリ驅出シタル以來支那人ヨリ苛酷殘忍ノ接

過テ受ケ之カ為メ異國人ニ猜疑スルノ念ヲ生セ
ズ非ナレバ親切ニ異國人ニ過セント欲スルノ意
アルナラシム但シ百年来彼等ハ頑固ニ國ヲ鎮シテ異
國人ヲ入レズ甚タレキハ不幸ノ漂流人ヲ殺ス者アリ此地
位ニ在テ支那人ノ仕事ハ甚々簡易ニシテ近頃自カラ
學ビタルヲ教フルニ過キス即チ異國人ニ相当ク敬重
又為シ親切ハ情ヲ表スルヲ教フルニ在リ文字
ヲ書ク下ハ告ヨク支那人ハ能ク其ノ歌ヲ歌フ
支那人之ヲ有用ノ技藝中ニ列スルヲ以テホルモ其ノ之ヲ教フ
家國ハ日本ニ在リ

ハカリシホリ又直ニ和園人ヲ轍ヲ踏ミホリ
支那人ノ争闘ヲシテ跡ヲ絶タシムヘシ然レド
支那人ハ未タ自己ノ争闘ヲ止ムル能ハサルヲ
以テ此一輩ハ最モ難カリシナラン
然レド支那人ハ一ニ是等ノ率ヲ為セズ無ク
支那人此太古ノ人民ニ交通セズ因テ生ニタ
ル一ノ効驗ニ其敵ヲ酷待セシト欲スル天性ヲ
シテ愈盛シキニシテ其ノホリ下ニ候
論者或言ク其ノホリ人斯ク開化ニ進マズ
其ノ其所行ニ任テ下サレテ支那ノ職

務小云所入夕支那人其所行一任之支手ヲ下
其地無之日本其地之於法事則為之重要也
又ト然此議論ハ容易ニ辨駁ノ可ニ到底ホ
ルモ寸人獨立ノ社中ニテ何令之又俄ツ
又權無以人之之保護スルノ職務アリ余思フ
支那人田ルモ非人ト土地相接近セザリテ十
テハ亦正モ非人ト斯クアリテ十ニ
支那人
第四
支那ハ此ニ至ルニ善地ヲ管轄スル權アリト

大ニ云フ口實ヲ確定セシメテハ此モ亦ニ於テ此
其行為ヲ再考スルヲ得ルヤ支那人失ヒ
如ル物ヲ日本ニ於テ得ズリ此合ハルニ
方今ハ形況ヲ以テ考テレハ支那ハ此モ亦ニ善
地ヲ管轄スルハ權アリト云フ口實ヲ確定スル
為メ其行為ヲ再考スルヲ難シ其故ハ支那是マ
テ亦此モ亦人ト對ニテ何處置ハ當ラズホトモ亦
人ト政事上ト關係ヲ立ルヲ妨ケタルハ其
其更ニ惡シキハホルモ亦人ヲレテ愈々異國
人ヲ敵視スルニ至ラシメ其勢ハ全世界ニ及ハシ

以スル火災ヲ起シ支那人之ヲ消滅スル能ハス
土蕃ヲ南岸東岸ヨリ驅テ山中ニ進入ルヲ得
ス之ヲシテ其海岸ニ漂流スル不幸ナル海客ノ
疫神タラシムホシモ此國就中其南部ニ交易往
來ノ大道ニ當ル者若シ土蕃ヲ懐クル如ク
必其種ヲ絶タサレハ此形情ノ改メル其見ルノ
望ニテ日本ニ近頃土蕃ノ為メ苦シメテシテ
ルヲ以テ其意ニ任セ行テ彼等ヲ処分スル權ヲ
十分有キリ但テ其國交際ノ本タル支那ナラズ
又ト帝ノ道リテ最モ卑賤ナル者トシテ其

通ニ於テモ其本タル正道公平ノ大理ニ背カ
サルヲ要ス日本「ホルモ」人ヲ過スルニ是等
ノ大理ヲ破ルニ至ルマテハ何人ヲ知レ日本ノ
誤失其咎ハ誰ラ得ルヲ余ハ信セズ

第五節

結尾

上人諸論ヨリ隨テ在テ件々ノ明カナルヲ信ス
第ナ支那ハ云テホルモカレ蕃地ヲ管轄スル權

有セシテ無シニホリヨク蕃地ノ専權ハ
 第二節若シ支那斯ル權ヲ有シニモセヨホル
 モカシ蕃地開化セサリシ間ハ無限ノ專權ニ非
 ス唯契約シタル某ノ義務ヲ行フ意力ニ附
 屬セシ權ナリ
 第三 支那ノ有セル是等ノ權ハ土蕃地ニ對
 シテ其義務ヲ行フヲ急シ即チ其日ニ之
 ヲ失却之ルニ依テ其權ハ荒漠不耕ノ土地ヲ
 有ス可キ正統ノ主人即チ開化國ノ爲メ典奪
 せラルモノナルヲ鑒ス借地人借地ノ代價ヲ払ハス若クハ契

約ニ依テ行フヘキ他ノ義務ヲ急シテ土地主ニ爲
 事ニ其地ヲ進出せル其如ク三節ノ專權ハ
 第四 其權ヲ奪テ先人ノ怠リタル事ヲ行ハシ
 爲メ荒漠無人ノ土地ニ先古ノ據ルニ開化國自
 典ハナル可カラズ其如ク三節ノ專權ハ
 第五 其權ハ先古ノ據ルニ開化國自
 第六 其權ハ先古ノ據ルニ開化國自
 第七 其權ハ先古ノ據ルニ開化國自
 第八 其權ハ先古ノ據ルニ開化國自
 第九 其權ハ先古ノ據ルニ開化國自
 第十 其權ハ先古ノ據ルニ開化國自

前文ハシトクハレタリトセヨセト氏亜墨利加
トク船口トブル号ト水夫ハカトルヲ殺以爲人
ニ殺セルタルヲ聞キニ後ホルリニハム氏ニ贈
リタル書簡ノ趣意ナリ曰ク汝ニ余ニテ支那政
府ハ残酷ノ被害ヲ爲シタル地方ニ於テ何等ノ
権ヲ有セルヤラ報告セシメ若シ権ヲ有セハ查
問罰責ヲ加ヘ魚ノ償補ヲ爲サシトテ支那政府
ニ要求セシムル事ト人々ニ言ハレタリ
若シ整備セシ政府ノ其地方ヲ管轄スルモノ無
クニハ何等ノ方法ヲ用テ償補ヲ取リ且後來再

ト斯レ所行ヲ禁止スヘキヤ汝ノ意見ヲ述
ブ可シト一千八百六十七年一千八百六十八年
合衆國交際報告卷一第四百九十八頁ヲ見ヨ
此文ヲ解釈スレハ即チ若シホルニテサ蕃地ニ整
齊セル政府無クハ其島ノ南隅ハ航海ノ大道
ナルヲ以テ茲ニ一政府ヲ建ラサル可カラス之
ヲ行フニハ如何ナル方法ヲ用フヘキヤトナル
リシハム氏ヲシテ其意見ヲ述ヘシト余セシ
ナリ
其間ニアトシタルハ此地方ニ事關ノ人民

住居シテ一ノ整齊セル政府ニ服従セシ其人民
ヨリ償補ヲ取ル能ハズ又保護ヲ得ル能ハズ一
千八百六十七年海軍事務宰相ノ報告書七章
ヲ見ヨ而ム斯ル大罪ヲ罰セズシテ止ムコト欲セ
ルニシテケレタリ一ノ語ヲ引用ス全上報告書ハ
京ヲ見ヨテ確知シ萬國公法ノ規則ニ從テ時宜
ニヨリ其同津ヲ執シタル蕃民ノ潜伏セル場処
ヲ剿滅セシ為メ其地ニ行ケリ然レハ其地方ヲ
某バ整齊セル政府ノ管下ニ置カレハ外國水
夫ノ安全ヲ保シ難キト知リ又亞墨利加ハ其

地ヲ取ルヲ願ハサルトテ知リ又某ノ開化國ノ
所屬トナラサレハ未ノ形况依然トシテ変ス
可カラサルトテ知リ支那ヲ以テ之ニ適セル國
トセリ當時支那ニ在ル者皆其説ニ左袒シ余ニ
亦之ヲ可トシテ支那官吏ニ其地ヲ占メシトテ
勸メタリテドミラルベシ所行ヲ可トセハ其
地方ヲ所屬トスルハ支那ノ之ニ適セリトセ
故ニ非ス但シ先リ其地方ヲ他國人占據セルニ
地ニ非スト看做ニ次ニ之ニ占據スルハ亞墨利
加若クハ西洋諸國ヨリモ土壤最ニ相接近スル

國ヲ宜シトス故ニ支那最モ之ニ適セト為シ
始ヨリ然ニ至ルマテ處置宜キリシ故ナリ
△斯レ大罪ヲ討ヒムニテ讚美ハ諸ナリ
レノ諸ヲ記セムニテ報告ハ公會ニ出セル
ハ大統領言スニラ之ヲ讚美スル證ナリ

第七款

曩日支那ヨリ台湾ノ吏ニ就テ發シタル
宣告ノ意義

其後五年ヲ經テ千八百七十二年予琉球人横殺
ノ吏ヲ探索スル為ニ彼地ニ至リタルトモ王尚
前説ヲ執シ千八百六十七年ニ於テ予カ勸メ
ル方策ヲ施行スルノ必要ナルコトヲ支那人ニ
迫リ予島ノ總督ト共ニ管轄法ヲ草稿シテ之
ヲメシ及ヒ亞國ニ示ストルニ依テ之ヲ北京ノ大
政府ニ建白シタルトモ報ヲ得ス蓋シ支那政

府ニテハ二百年來ノ實驗ニテ台湾人ノ開
クハカラス又管制スルハカラスルニ絶望シ
タルモソニテ支那政府ニ永々此ノ念ヲ絶
チタルコトハ曩キ頃日本在苗英國公
使ヨリ此地方ハ支那管内ニテハ
十キトシ就テ數條ノ質問ヲ為モ
北平ニテ支那政府ヨリ十四答ヲ宣
告ニテ証スルヘシ其時チエニリヤメシ
答ニテ曰ク我國元來此土人ノ風
俗等ニテハ

下サス又土人ヲシテ崇ニ我法ニ從ハシメスト
虽モ其占領スル地ハ皆中国ニ屬スト然レトモ
汝土人ヲシテ嚴ニ我法ニ從ハシムトイフコト
即チ支那ノ第一ニシテムヘキコトニシテ既ニ此
一莫ニ誤レハ是レ其土ヲ有スルキ權ハ失ヒタ
ルナリ故ニ前文云フ所ニ如ク此地實ハ無主
地ニシテ何レノ國トモ此地ニ為スヘキコト
ヲハ其談判ナルト戦争ナリト又ハ持ニ遊觀ナ
リト論ナク其欲スルコトヲシテ妨ナシ今
日本此地ニ兵ヲ遣フコト欲スルハ其兵ハ皆歐洲

人々用ケルモ亞米利加人ヲ用テルモ萬國コレ
ニ容喙スヘキ權ナシ況ヤ支那如キハ最モ其
權ナキモノナリ

一千八百七十四年六月十一日於東京

六月十一日於東京
...

封唇第一号

政府電線ニ托ス

長崎スレーション五月一日

午前九時廿八分着報告

ビンガム氏ヨリ 長崎在苗合衆國領事官

マレゲエム江

ニニールヨルク船ハ蕃地行ヲ免サレ日本政府
ヨリ後行ヲ止ムル命アリ港中ニ停泊セ

五月一日午前六時着

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.



